

科目名	デッサン 2							年度	2026
英語科目名	Drawing 2							学期	後期
学科・学年	CG映像科 1年次	必/選	必	時間数	60	単位数	2	種別※	実技
担当教員	佐々木、齋藤、鮫島		教員の実務経験		有	実務経験の職種		イラストレーター/画家/カメラマン/美術講師	

【科目の目的】

CGデザイナーにとって重要な観察力・造形力を養う。
 様々な現象・自然物・人工物を観察し客観的に把握・表現する力、三次元空間・立体感を表現する力をデッサンを通じて身につけることを目的とする。

【科目の概要】

観察力・表現力を養うために、教室内にセットしたモチーフや配布されたモチーフを主に鉛筆でデッサンする。さまざまな形態や質感を持つ工業製品や自然物、石膏像やモデルや自分自身の体もモチーフになる。1枚の作品を2週～3週で制作することで、作品の計画・表現・検証・仕上げのプロセスを繰り返し体感する。

【到達目標】

この科目では、実際のモチーフを主に鉛筆を使用し、二次元画面に立体的に表現出来るようになることを目標とする。具体的には、さまざまな形態や質感を持つ工業製品や自然物、およびモデルや自分自身などの人体をよく観察して描くことで、解剖学的・構造的に理解し、モデリングやアニメーションをはじめとしたCG制作に役立てることである。また、構図、光、質感表現など作品の絵作り、見せ方の基本も学ぶ。

【授業の注意点】

実際に描いて経験しデッサンを自分の感覚の中に取り込むことを重視する。したがって、描き、モチーフと比較検証し、直し、より対象に近づくという姿勢が大切であり、制作途中段階での比較検証を怠ったり、完成を焦って直すべき構図や形態をそのままに放置するという態度はとるべきではない。うまく出来ないことを恐れずに積極的に描いてみるのが上達に繋がる。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A 「制作意欲と自主性」	課題に対して、常に意欲を持って取り組んでいる。教室内の制作環境にも気を配っている。	課題に対して考察している。用具の準備が出来ている。周囲の制作環境を意識出来る。	課題について、考察が足りない。用具の準備が不十分な時がある。制作環境に気を使わない。	モチーフや課題に対して、理解しない。自主的に描こうとしない。用具の準備が出来ていない。	制作に対してやる気が感じられない。描く頻度が少ない。画材の準備が全く出来ていない。
到達目標 B 「作品構想と計画力」	課題の意図を良く理解し、構想を立てることが出来る。プロセスを経て作品を完成させられる。	課題の意図を理解している。複数のアイデアから作品を完成させることが出来る。	課題に対して複数のアイデアを出すことが出来るが、計画性が足りず作品が完成しないことがある。	課題に対しての理解が足りない。アイデアが出ないことがある。作品が完成しないことがある。	課題が理解出来ない。アイデアスケッチが出来ない。時間内に作品が完成しない。
到達目標 C 「画面構成力と空間把握」	モチーフや課題に対して最適な構図を取り、遠近法により、自然な空間を表現出来る。	モチーフや課題に対して、最適な構図を探そうとしている。遠近法の表現が不自然なことがある。	モチーフや課題に対して、構図の取り方が適していない。透視図法を十分に理解していない。	モチーフや課題に対して、構図の意識が乏しい。遠近感について、表現出来ない。	画面枠と構図という意識が無い。遠近法について理解が出来ていない。
到達目標 D 「観察力と表現力」	モチーフの構造とプロポジション・質感などを良く観察し、力強く自然に表現出来る。	モチーフの構造とプロポジション・質感を観察しようとしている。	モチーフの構造やプロポジションの観察が不足している。形が不自然になることがある。	モチーフの構造やプロポジションの観察が著しく不足している。つねに形が不自然になる。	モチーフについて、興味が足りない。観察し比較するという意識が足りない。
到達目標 E 「創造性とオリジナリティ」	課題を独自の解釈や表現で制作しようと試み、客観性と説得力のある作品を完成させられる。	課題を独自の解釈や表現で制作しようと試みる。作品は客観性が欠けることがある。	課題を独自の解釈や表現で制作しようと試みる。課題の意図から外れてしまうことがある。	課題を強引に独自の解釈や表現で制作しようと試みる。作品に客観性が乏しい。	作品に独自性を求める気持ちや意欲が乏しい。新しい表現への意欲が少ない。

【教科書】

毎回プリントを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

試験・課題50%完成した企画の完成度について評価する。
 平常点 50%積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		デッサン 2			年度	2026	
英語表記		Drawing 2			学期	後期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標 = 修得するスキル	評価方法	自己評価	
1	静物デッサン	質感の違いを捉える	1	質感の観察	質感の観察	1	
			2				空間性を伴わせた質感の描き分け
2	静物デッサン	質感の違いを捉える	1	静物 金属バケツなど 最終回は作品講評	質感の観察	1	
			2		空間性を伴わせた質感の描き分け		
3	静物デッサン	質感の違いを捉える	1	質感の観察	質感の観察	1	
			2		空間性を伴わせた質感の描き分け		
4	構成デッサン	画面構成を考える	1	3種のモチーフの特性を理解	3種のモチーフの特性を理解	1	
			2		特性を効果的に利用した画面構成		
5	構成デッサン	画面構成を考える	1	構成 ガラスコップなど 最終回は作品講評	3種のモチーフの特性を理解	1	
			2		特性を効果的に利用した画面構成		
6	構成デッサン	画面構成を考える	1	3種のモチーフの特性を理解	3種のモチーフの特性を理解	1	
			2		特性を効果的に利用した画面構成		
7	石膏デッサン	印象を捉える	1	人体プロポーションの観察	人体プロポーションの観察	1	
			2		空間を意識した立体の捉え方		
					白いものを黒く描く		
8	石膏デッサン	印象を捉える	1	石膏(首像) 最終回は作品講評	人体プロポーションの観察	1	
			2		空間を意識した立体の捉え方		
			3		白いものを黒く描く		
9	石膏デッサン	印象を捉える	1	人体プロポーションの観察	人体プロポーションの観察	1	
			2		空間を意識した立体の捉え方		
			3		白いものを黒く描く		
10	人物デッサン	バランスを捉える	1	光源からの距離に応じた適切な明度・コントラスト変化を捉える	光源からの距離に応じた適切な明度・コントラスト変化を捉える	1	
			2		人体の自然なバランスを捉える		
			3		空間性を意識した強弱のある描画		
11	人物デッサン	バランスを捉える	1	モデル (着衣、女性) 最終回は作品講評	光源からの距離に応じた適切な明度・コントラスト変化を捉える	1	
			2		人体の自然なバランスを捉える		
			3		空間性を意識した強弱のある描画		
12	自画像デッサン	立体的に頭部を捉える	1	自画像 最終回は作品講評	効果的なポージングと視点を探る	1	
			2		立体として頭部を捉える		
			3		質感に応じた描き方		
13	自画像デッサン	立体的に頭部を捉える	1	効果的なポージングと視点を探る	効果的なポージングと視点を探る	1	
			2		立体として頭部を捉える		
			3		質感に応じた描き方		
14	他画像	動から静を切り取る	1	友人像 最終回は作品講評	動作中の人体から自然なバランスを見つける	1	
			2		立体としての身体を捉える		
			3		空間性を意識した強弱のある描画		
15	他画像	動から静を切り取る	1	動作中の人体から自然なバランスを見つける	動作中の人体から自然なバランスを見つける	1	
			2		立体としての身体を捉える		
			3		空間性を意識した強弱のある描画		

評価方法 : 1. 作品課題
自己評価 : S : とてもよくできた、A : よくできた、B : できた、C : 少しできなかつた、D : まったくできなかつた
備考 等 指定の実習室・教室で受講する。